

# 図書館だより 第26号

八千代市立大和田図書館 482 - 3240

八千代台図書館 482 - 0912

勝田台図書館 484 - 4946

緑が丘図書館 489 - 4946

ホームページ <http://www.library.yachiyo.chiba.jp>

## 図書館マナーは一人一人の心遣いから！



図書館では、多くの市民の皆さんに気持ちよく利用していただくために緑が丘図書館、大和田図書館、八千代台図書館、勝田台図書館の順でマナー向上の展示を行って、協力をお願いしています。図書館の本は市民の皆さんの大切な財産です。一部の心無い人のために、多くの方が不愉快な思いをしたり、必要な本が利用できなくなり、困っています。借りた本も大切にしましょう。

### <破損>



かなりの力で2ページほど破かれています。お子さんが本を乱暴に扱ったら、注意してください。

### <切り取り>



お菓子のレシピが切り取りされ、二度とお菓子を作ることができません。図書館のコピーをお使いください。

### <水ぬれ>



一度、ぬれた本は元にもどりません。雨の日はビニール袋に入れて、ぬれないようにしてください。

### <書き込み>



鉛筆やマーカーで線を引く人がいます。自分の本と勘違いされています。除籍するしかありません。

図書館利用者のマナーについて、図書館にお寄せいただいたご意見の中からいくつかを紹介します。

### 新聞や雑誌を独占している人がいる

次にお読みになりたい方がたくさん待っています。一人で2紙以上を確保したり、長時間の独占は他の利用者の迷惑になります。読み終わった雑誌や新聞は、速やかに元の場所へ戻してください。

### 返却期限を守らない人がいる

期日が過ぎても資料を返却せず、連絡してもなお返却していただけない方がいます。

図書館の資料は、貸出利用だけでなく、閲覧利用など多くの方が利用されます。借りた資料は必ず期限内に返却してください。

### 子どもが大声を出したり駆け回っている

本を読む人や調べものをする人がいます。保護者の方は子どもが大きな声を出したり、走り回らないように注意しましょう。「子どもだから仕方ない」という甘えは持たずにしっかりとマナーを守るように心がけましょう。

### 携帯電話の着信音が気になる

館内では、携帯電話の使用はできません。電源を切るか、マナーモードに切り替えてください。通話はロビー又は外で、お願いします。

## ～ 裁判員制度をご存知ですか～

テレビやマスコミ等で話題となっている「裁判員制度」が、平成21年5月21日から始まります。裁判員制度とは、選挙人名簿をもとに選ばれた国民（20歳以上）が、重大な刑事事件の裁判に「裁判員」として加わる制度です。

図書館では、裁判員制度に関する資料を収集していますので、調べてみてはいかがでしょうか？

### <図書>

- |                       |                   |        |
|-----------------------|-------------------|--------|
| 「これ一冊で裁判員制度がわかる」      | 読売新聞社会部裁判員制度取材班/著 | 中央公論新社 |
| 「知る、考える裁判員制度」         | 竹田昌弘/著            | 岩波書店   |
| 「市民から見た裁判員裁判」         | 大河原真美/著           | 明石書店   |
| 「裁判員制度の正体」(講談社現代新書)   | 西野喜一/著            | 講談社    |
| 「よくわかる！裁判員制度Q&A」      |                   | 最高裁判所  |
| 「よくわかる裁判員制度と刑事訴訟のしくみ」 |                   | 三修社    |

また、映像で見る裁判員制度に関するものも所蔵しています。

- |       |             |
|-------|-------------|
| <DVD> | 「裁判員制度」     |
| <ビデオ> | 「ぼくらの裁判員制度」 |
|       | 「評議」        |



# ～ 大江戸貸本事情 ～



## 庶民から大名まで 利用は何と数十万！

芸術の秋、スポーツの秋。いろいろな秋の過ごし方がありますが、何といても秋は読書。図書館の利用数も、秋が深まるにつれ上昇の傾向を示しています。

いま私たちは、ごく簡単に本を手にすることができますが、つい数代前まで本は高価なものであり、江戸時代の人々は、「貸本屋」をさかんに利用していました。

一部の専門書は別として、小説や実用書など大部分の本は借りて読むのが普通であり、庶民はもちろん大名も貸本屋の顧客に入っていました。

読書週間を前に、百万都市江戸の人々の読書欲を満たした「貸本屋の世界」にふれてみませんか。

## 貸本屋誕生、そして激増

貸本屋が、いつどんな形で始まったのか、はっきりした事はまだ判っていませんが、商品として本を貸し出すには、まず多くの本が必要となります。

日本で民間印刷が行われるようになったのは江戸期以降で、はじめは個々の活字を組んで印刷する「活字印刷」の方法が用いられました。これは組版、改版が可能で経済的でしたが印刷能力は100部程度であったため、太平の世で急増する読書人口の需要を満たすことができませんでした。この問題を解決したのが本ごと、頁ごとに作成した版木を使う「整版印刷」です。大量印刷を可能とするこの方法によって印刷業界は飛躍的に発展し、貸本屋の増加はもちろん、本の販売と貸出しを兼ねる版元（出版社）も多くなりました。さあ、貸本屋時代の到来です。

## 本を背負って得意先回り

当時の貸本屋は店舗を構えるのではなく、背丈に余る程の本を背負って各家を回るシステムでした。幕末の江戸市中には約800軒の貸本屋があり、一店が170～180軒の得意先を持っていました。家族内での回し読み等を考え合わせた場合、何と数十万人が利用している勘定になり、その数字の高さに驚かされます。

## 主流は娯楽読物、人気は「手あか」

人気本は何といても「当世はやりの娯楽読物」。

そして人気のあかしはなんと「手あか」。江戸時代屈指のベストセラー「修紫田舎源氏（にせむらさきいなかげんじ）」などは、指のあたる左頁下だけが汚れたものが多く、当時の人気をうかがい知ることができます。

## 貸出1～15日、見料はセット価格

貸出期間には一日限、三日限など数種類の設定がありましたが、幕末の江戸では、人気本や新刊以外は「十五日限」が普通でした。当時の本は殆どが分冊であったため、見料は作品ごとのセット価格が普通で、地域によってもかなりの差があったようです。

## 京伝「作品は嫁、読者は婿君」

江戸の人気戯作者、山東京伝は、著作「雙蝶記」の序文で作品を嫁、出版社を実家、読者を婿、そして貸本屋を仲人にたとえ、良縁がまとまるのは仲人の多大な労によるものであると述べて、その働きを讃えています。この序文は、数百年にわたって日本の読書界を支え、リードしてきた貸本屋の位置付けを明確に示したものであるとして知られており、本の評判、売れ行きはひとえに貸本屋の肩にかかっていたこと、そして近世文学成立の背景には、貸本屋の存在が重要な役割を果たしていたことを、現代の私たちに教えてくれます。

## 参考資料

- 「近世貸本屋の研究」長友千代治/著 東京堂出版
- 「江戸東京博物館」 小学館
- 「お江戸でござる」 ワニブックス 他

# リサイクルブックフェア

## 開催のお知らせ

図書館で除籍になった本や市民の皆さんから提供された本などを無料で差し上げます。

開催日 平成20年11月15日(土)

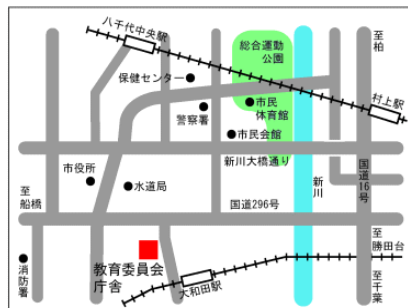
時間 午前9:30 ~ 午前11:30

場所 教育委員会庁舎 1階会議室

駐車場には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

フェア開催にあわせて、ご家庭で不用になった一般書や児童書の寄贈を受付しております。

11月12日(水)までに最寄りの図書館へご持参ください。



## リサイクル文庫の開設、好評です！

リサイクルブックフェアに参加できない方には勝田台図書館、緑が丘図書館のリサイクル文庫(常設)をおすすめします。リサイクル文庫では、家庭で不用になった本を各自お持ちいただき、希望する方に1人5冊まで持ち帰っていただいております。持込み、持ち帰りに事前の手続きはありません。



緑が丘図書館のリサイクル文庫



## かぼちゃが町にやってくる！！

この時期、町を歩いて目につくのが黒とオレンジの2色。そう、ハロウィーンのシンボルカラーです。かぼちゃのランタンや魔女のグッズは、もうすっかりおなじみになった感がありますね。ハロウィーンは、農耕に端を発するケルト族の行事で、魔女や幽霊が浮かれて騒ぎまわるといふその夜は、欧米ではクリスマスに次ぐ楽しい行事とされています。アメリカでは、さまざまな扮装をこらした子供たちが「お菓子をくれなきゃいたずらするよ」とはやしながら各家を回るならわしが定着しており、桐島洋子著「マザー・グースと三匹の子豚たち」には、その様子がくわしく描かれています。ハロウィーンを題材にした児童書は数多く出版されていますが、大人向けの作品ではアガサ・クリスティの「ハロウィーン・パーティ」、ブラッドベリの「ハロウィーンがやってくる」などが知られています。ハーバ・リーの「アラバマ物語」は、ピューリッツァー賞受賞の名作として読みつがれ、映画化もされていますが、これにもハロウィーンの様子が登場します。ビデオを含め、みな図書館にある作品です。この機会に楽しまれてはいかがでしょうか。

### \* 編集後記 \* \* \*

スイスの絵本作家、ハンス・フィッシャーをご存知ですか。「ブレーメンのおんがくたい」「こねこのぴっち」「たんじょうび」「長ぐつをはいたねこ」など、たくさんのすぐれた作品を創作しています。今年は生誕100年にあたり、日本でも原画展が開催されています。3人の我が子に贈るために父親の目線で書かれた珠玉の絵本をぜひ、身近な子供たちに読んであげてください。



図書館だより 第26号 平成20年10月発行

\* 編集 八千代台図書館 八千代市八千代台北6-7-6 047-482-0912